

暮らしの中の下水道

大宮中学校

三年

押川

亜梨珠

私達の暮らしの中で下水道を身近に感じられる目印と言え、マンホールかと思えます。私の暮らす宮崎市では、市の花「ハナシヨウ」をデザインしたカラーマンホールや、県内二十六市町村すべてで、ポケモンのマンホール「ポケふた」など、地域の名所や様々な文化などをデザインしたマンホールも人気になっ、ているようです。

私達は、毎日の暮らしの中で水を沢山使いますが、洗い物、洗濯、トイレなど日常生活に欠かせない水は、一人が一日あたりおよそ二百から二百五十リットルもの生活用水を使っ、ているそうです。いったん使われた水は、当然汚れてしまいきます。汚れた水は、下水道管を通っ、下水道処理場に届けられます。下水道の役割は大きく二つあります。

一つ目の役割は、汚れた水をきれいにする事
です。きれいな水にする為には、微生物が重要
な役割を果します。川の水が流れる間にきれ
いになるのと同じ原理で、微生物が汚れを
食べる事によつて下水をきれいな水にします。
二つ目の役割は、降った雨水を速やかに川や
海に流し大雨から人々を守る事です。
日本のような雨の多い地域では低い土地に雨
水が留まってしまう事や溢れてしまいう事が頻
繁に生じてしまいましたが、下水道によつて
これらの被害者を抑える事ができるようにな
りました。
下水道が整備される以前は、汚水がそのま
ま川へと流れ悪臭や水質汚染などの環境問題
を引き起こしていました。急激な人口増加
や都市化に対応するため着実に整備を進めた
結果、令和三年度末における全国の下水道普
及率は約八十三パーセントとなつています。
下水処理場は、私達の生活や産業で汚した水

をきれいに処理してから自然に還す重要な役割をしっかりとします。

そして、下水道施設がその機能を十分に発揮できるよう、下水道を正しく使うことが重要になります。

私達は、普段の暮らしの中で出来る事があります。それは、お皿の汚れは拭いてから洗う事です。普段何気なく流して捨てる食べ残しは、ほんのわずかな量でも川を汚してしまいます。例えば私達の主食であるお米ですが、

米のとぎ汁を流すと、魚が住めるまで、薄めるのに必要な水の量は、お風呂四杯分にもなるのです。

米のとぎ汁は庭の花壇や植木などの散水として利用する様にしましょう。

次に、排水溝にはネットをつけて、小さな食べかすも流さない事や、トイレシートの外は流さないようにしましょう。

なぜティッシュペーパーは流せないのか。それは、紙の性質が、水に溶けないからで

す。

下水に流す事を想定に作られたトイレは、トイレットペーパーとそうでないティッシュペーパーでは紙の性質が異なります。

ゴミくずが排水パイプに残留し、結果的に下水道がつかまる原因になるのです。

一人一人が正しく行動し、下水道を守りましょう。

私の暮らす宮崎市には、下水道処理場が六箇所あり、二十四時間休む事なく働き続け

てくれていきます。

下水処理場に汚水が流入して、きれいな水に戻してから放流されるのにかかる時間はおよそ十二時間と言われ、きれいな水は大淀川に還されます。

私は、下水道の事を調べていくうちに大淀川にも生活を支えてもらっている事を知りました。

大淀川には、ヤマメやドンコ、アカメなどの魚や野鳥なども数多く生息しています。

下水道はそんな動植物の命を守るために大切な役割を果たしてゐるのだと知りました。水をきれいにするには、大きな設備と長い時間、そして費用がかかっています。健康で、文化的な生活を営むためにも下水道は、なくてはならない存在なのです。

私は、ルールを守り水を大切に、水を汚さないように日々心がけ、日本の限りある資源を大切に守っていき、次の世代、今のまた次の世代へと、より良い暮らしが送れるように、未来の為に今できる事を行動しようと思ひました。